

仙台ぐらし



[仙台ぐらし 下载链接1](#)

著者:[日] 伊坂幸太郎

出版者:荒蝦夷

出版时间:2012-2-18

装帧:单行本

isbn:9784904863183

地域誌『仙台学』の1号から10号まで（2005年から2010年）の連載エッセイ「仙台ぐらし」（全面改稿）と、単発エッセイ1編に、震災後のエッセイ「いずれまた」「震災のあと」「震災のこと」、そして宮城県沿岸を舞台に移動図書館（ブックモバイル）で本を届けるボランティアを主人公とした書き下ろし短編「ブックモバイル a bookmobile」を収録。

作者介绍:

目录: 1／タクシーが多すぎる
2／見知らぬ知人が多すぎる 1
3／消えるお店が多すぎる
4／機械まかせが多すぎる
5／ずうずうしい猫が多すぎる
6／見知らぬ知人が多すぎる 2
7／心配事が多すぎる 1
8／心配事が多すぎる 2
9／映画化が多すぎる
10／多すぎる、を振り返る
11／我々温泉で温泉仙人にあう
12／いずれまた
13／震災のあと
14／震災のこと
15／ブックモバイル a bookmobile（書き下ろし）
16／あとがき
・ ・ ・ ・ ・ (收起)

[仙台ぐらし 下载链接1](#)

标签

伊坂幸太郎

随笔

日本

日本文学

日文

日系推理

日本版

日本文学以外

评论

看了这本随笔才知道伊坂幸太郎还住在仙台。他描述08年之前的仙台有点陌生也有点熟悉，拉拉杂杂絮叨自己的事情，在咖啡店写稿子遇到的人的轶事也挺好玩。地震时候的心理活动跟当时的自己也有点相似。市中心就巴掌大，会不会在某个地方碰见这位作家呢，想想也挺有趣。

囤了好多伊坂大神的段子，哈哈

书本身没啥意思，脑残粉以外可以不用看了。

书购于仙台。东北大学里伊坂就读的法学部离鲁迅像很近呐。

非常萌非常有趣的随笔集，本来编辑是让他写“类似随笔的虚构作品”，但是他只有第一篇是这么写的，后来几篇基本都是真实事件了。本书最后一篇a bookmobile是一篇以震后仙台为主题的治愈度很高的短篇小说。总之，这本是伊坂粉儿的must have!

伊坂的散文 我都不是特别喜欢 感觉都是酱油(￣▽￣")

伊坂君好幽默，p118猫咪好萌。好久没边看书边笑了。

那个可乐牛奶不知道还有没有买，几次走到小食堂那里都想进店里看看，但还是觉得专门过来问太蠢了。毕竟又不做公众号，毕竟是别人的回忆。太刻意的话，就不好玩啦~

[仙台ぐらし_下载链接1](#)

书评

[仙台ぐらし_下载链接1](#)